Peer

ぴあ応援ブック

Vol. 4

2023 Winter

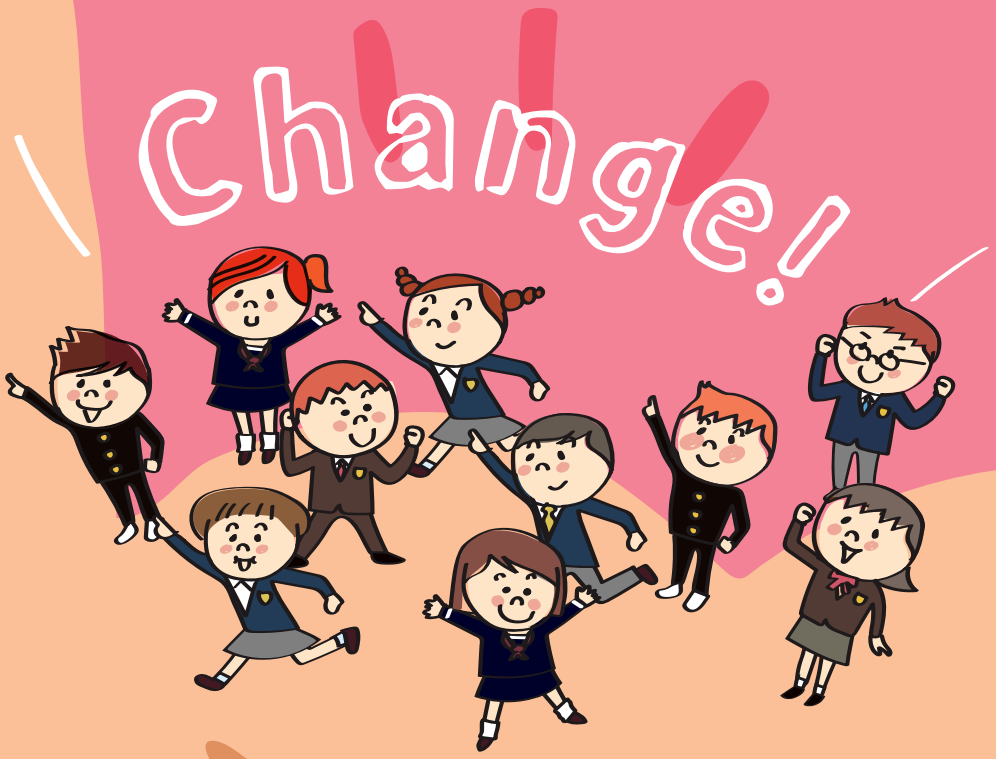
ぴあ応援ブック制作チーム

児童養護施設・里親家庭で暮らす

夢を持っているきみへ。
これから夢を持つきみへ。

特集号

社会に思いを　届け私達のメッセージ
～ぴあ応援フェスから～



※「ぴあ（Peer）」は、仲間を意味します。

もっと知って ほしーい！！

施設・里親・そしてぼくたちのこと

皆さんは、学校の友達や部活の仲間、バイト先の人にもっと児童養護施設・里親のことを知ってほしい！と思ったことはありませんか？今号では10月に行われた「ぴあ応援フェス」で聴いた、施設や里親家庭で暮らす中高生の意見をご紹介します。

部活の試合で同じ施設の子が沢山来た時に、友達に「あの子たち、全員兄弟なの？」と言われたが、あいまいに笑ってごまかしてしまった。

施設の子というだけで、友達の親とかに心配されるのが悲しかった。

学校から施設へのプリントを渡されるときに、「なにそれ～」とクラスメイトが集まってきて見せ物のようにされるのが嫌だった。

最近、里親家庭に来て学校帰りに方向が変わってしまったことから周りに何か思われない様に周りの人と会わないように帰っている。

里親家庭、児童養護施設にいるという理由で壁を作らないで欲しい！
親がいる、いないに関係なく、一人の同じ人間として自分を見て欲しい！

学校で児童養護施設のことを話しづらく感じるけど、同じクラスの子だけでも児童養護施設について知っていて欲しい。

社会的養護が認知されてほしい。普通になってほしい。
そのために、一般の人に理解してもらえるようになったら良い。
社会的養護経験者が自ら情報発信していくことも必要。

施設自体の認知度が低いように思えて退所後が心配。

「普通の子じゃない」、「何か悪いことをしたから実親と暮らしていない」といった風な差別的な目で見られる。

児童養護施設で暮らしていると話すと「何それ？」と言われ、“一”から話さなければいけないのが大変。

社会的養護を受けている子どもへの偏見（大人も子どもも）。
→正しい知識を持ってほしい。

応援生から

私は最近、大学の友達に人生で初めて自分が施設出身で、その後里子になったと話すことができました！友達は真摯（しんし）に私の話に耳を傾けてくれて、拒絶や同情、偏見などはなく、私が打ち明けたことに対して、涙まで流してくれました。本当にうれしかったです。

打ち明けたことで「それまでの関係にヒビが入ったらどうしよう」と考えることは決して悪いことではありません。むしろそう考えるのが普通だと、今でも思います。しかし、打ち明けることを怖がりすぎるのもまた違うかな、とも思います。

自分自身が施設出身であることなどを打ち明けた際に、そのことをしっかりと受け止め、これまで通りに接してくれる人とこそ、今後も良い関係性を続けられるのではないかと思います。そのため、最初はかなり勇気がいるかもしれませんが、勇気を持って打ち明けてみることを選択肢の1つとして持っておくのは良いことではないかと思います。

応援生から

施設・里親で生活していることをマイナスに捉えられたり、誤解されたりすることもあるよね（涙）。

私は友人やバイト先の人など、まずは身近な人に施設のことを話して正しく理解してもらえるように努めているよ！一番は環境にとらわれず自分を大切にすること！

施設・里親で暮らしていることが理由で心無いことを言われたり、そのために本当のことを言いにくかったりするよね。無理に言う必要はないし、信頼できる人に伝えていって少しずつ理解の輪が広がっていったらいいな！

応援生とは　児童養護施設・里親家庭等進学応援金（奨学金）を受け、全国の大学や専門学校で学ぶ“応援生”です。この冊子は、その中の有志6人が中心になって制作しています。

これから変わっていって欲しいこと

コロナになった時に
部活を休んだら、
「施設だから」と
嫌なことを言われた。

保育士になりたくて専門学校へ
進もうと思っていたが、
今回の話を聞いて大学の方が
学費が安いのではないかと
感じたが、施設の職員さんに相談すると
「大学は難しいんじゃない？」
と言われた。

学費・生活費など
大変な面も多いため、
大学生になってからも
サポートが欲しい。

養成所にいきたいけど、
都市にしかないから
施設の先生に相談
したら反対されそう。

社会的養護出身者向けの奨学金が
さまざまな団体以外に各大学でもあったが、
比較的難関校が多いイメージ。
大学独自の奨学金をもっと大学から
積極的にアピールすることに加えて、
より多くの大学で取り入れて欲しい。

応援生から

私が施設にいる間は「なぜ?」と思うことも多かったですが、施設を出て思うことは、職員さんも考えがあって言っていることだ、ということです。

だから、その疑問を率直にぶつけて話を聞いてみるのも良いかもしれません。

その上で、どうしても自分の意見が曲げられないとき、自分が目指したいと志す夢がある場合は、めげずにつらぬき通す力、というものも大事だと考えます。

Change the Rules!
ルールを変えて!

情報交換の場を!

社会的養護を退所した人たち、社会的養護をこれから退所する人たちのコミュニティ、サイト、掲示板などを作り情報交換できるようにしてほしい。社会的養護退所者目線で利用しやすいお店などの情報も知りたい。

施設のルールの改善を!

壁が薄すぎて、夜中～明け方まで電話の声がする。
明確なルールがしっかりと定まっていない。

社会的養護の生活の元での不自由がなくなってほしい…

携帯が持てない。社会的養護に対して周りからどう思われるかが心配で、いろいろなことで不自由に感じている。

SOSに気付いて…

SOSを周りの大人に出しにくい、出せない子どもへのケアや対応できるシステムを作って欲しい。
ただでさえ、人に頼ることが難しい中で、SOSを出そうと勇気を持っている子を見つけて欲しい。

応援生から

社会的養護での生活は不自由なこと、不安なことが多いですよね。僕も児童養護施設で暮らしていた時を思い返すと、不自由や不安を感じたことが多々ありました。

特にルールに縛られてきゅうくつに感じることが多かったです。ルールを改善して欲しい時は職員さんや里親さんなどに頼んでみたり、そのルールがある理由や目的を教えてもらったりすると良いと思います。

また、不安を感じたり、困ったりした時に、社会的養護で暮らしていることが理由で周りに助けを求めづらい場合があると思います。なので、助けを求められる人をつくっておくことが望ましいですが、できない場合は相談できる機関もあるので利用してみてください。

皆さんには社会的養護で暮らしている仲間がたくさんいます。
一人ではない！ということを忘れないでください。

ぴあ応援ブック制作メンバーから社会へ伝えたいこと!!

私が社会に言いたいのは、もっと施設や里親家庭について知って欲しいということです。
もちろんネガティブな面もありますが、それだけではありません。施設出身や親と一緒に暮らしていないという理由で特別扱いするのではなく、みんなと同じように“一個人”として関わって欲しいです。
また、施設で暮らしているなどの理由で悩んでいる子どもがいたら、独りぼっちと思わずにどんどん周りに頼って欲しいです。(ゆう)

社会的養護の下で生活する子どもたちの環境に関しては、まだまだこれから整えていく必要があることももちろんあると思います。
しかし、同じ社会に生きる一人ひとりが「施設だから」という考えを持ったり「かわいそう」と思ったりするのではなく、それぞれの夢に向かって進んでいる、これから進もうとしている子どもたちにとって励みとなるような存在であって欲しいと思います。(ひな)

今の世の中には、「社会的養護を必要とする子どもたち」への認知度が低いために起こる問題が多すぎます。神様や自然現象などに代表されるように、人は知らないものに対し、恐怖や畏(おそ)れを抱く生き物です。まずは「知」り、そして「識」ってもらう。それが私たちへの偏見や差別を無くす第一歩となると思います。
(ゆうご)

僕は社会的養護が正しく認知されて欲しいです。社会的養護で暮らしていることは、不幸だ、かわいそうだというネガティブな捉え方だけをするのではなく、ポジティブな側面にも目を向けて欲しいです。僕たちにとって施設は家であり、施設の仲間はかけがえのないものなのです。(しょうむ)

先日行われたぴあ応援フェスを通して、私自身も施設での生活を振り返ることができました。
施設・里親について正しく理解されていないことも多いので、私たちが世の中に向けて正しい情報を発信しなければと改めて実感しました!
社会の皆さん、家族とは離れて暮らしているけれど私たちはその分沢山の愛に包まれて幸せです♡(きぬよ)

わたしも
社会の偏見や誤解を
乗り越えてきました！

Interview

草間吉夫さんへのインタビュー 2

皆さんの暮らしに直結する「児童福祉制度」。制度を作る側と受ける側の両方の視点を持ち、ぴあ応援フェスにもご登壇（とうだん）いただいた草間さんにお話しをうかがいました。今回は、前回（Vol.4）からの続きです。

プロフィール
高校卒業までを乳児院と児童養護施設で育つ。東北福祉大学大学院博士課程修了。児童養護施設勤務後に松下政経塾入塾。2006年から14年まで高萩市長。『ひとりぼっちの私が市長になった！』（講談社）などの著書がある。

私（質問者）は、多くの子どもが児童養護施設で一緒に暮らすことで寂しさを軽減できるので良いと思っています。しかし最近は、里親家庭などで暮らす子どもを増やし、施設を減らしていく取り組みがあります。このことについてどう思いますか？

施設の子どもの人数が多いと寂しさを少し忘れられるというのも一理あると思いますが、家庭のない子どもにどんな環境が望ましいか考えたときに、世界共通で、一般的な家庭に近い環境で育つことが良いとされています。日本でも2016年から家庭に近い形が良いとされていて、私もそう思っています。
施設で家庭を感じるのは難しく、子どもが育つ最善の環境とはいえません。
将来は、里親家庭・ファミリーホーム・施設が3分の1ずつになり、施設には、より専門的なかかわりが必要な子どもが暮らすようになると思っています。

政治家になるために必要なこと/大事なことは何ですか？

必要なことは、「ミッション・使命感」です。政治家になることが目的の人は、政治家になったとたんに目的がなくなり、何のために自分が政治家をしているのかわからなくなります。教養や幅広い知識を持つことも大切だと思います。

最後に中高生へのメッセージをお願いします！

中高生の方々には、自分自身を大切にして欲しいです。私も20歳まではハンディを感じていましたが、1人暮らしをしてから自分がどれほど周りの人に大切にされていたか思い知りました。
また、皆さんに「あなたは一人ではない」と伝えたいです。一人ではありません。あなたを思ってくれる人が必ずいることを覚えていて欲しいです。

取材して感じたこと

私も草間さんと同じく児童養護施設出身です。施設卒園後、施設や里親家庭出身だからという理由で夢をあきらめてしまう子も多いと思うし、自分自身もそれが理由でくじけそうになったことが何度もありました。けれど、草間さんの話を聞いてあきらめず夢を追い続けることが大切だとあらためて思いました。
貴重な話を聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。

夢を持っているきみへ。
これから夢を持つきみへ。

次号もお楽しみに！

未だに新型コロナウイルスが蔓延しています。そしてこの季節になり、インフルエンザにかかる方も同時に増えています。何事も体が資本ですから、体調には十分に気をつけてお過ごしください。（ぴあ応援ブック制作チーム一同より）

INFORMATION

2022年10月8日(土)、9日(日)
ぴあ応援フェスをオンラインで開催しました!

このフェスは、全国の社会的養護で暮らす中高生に夢や希望を見いだしてほしいという思いから開催し、2日間で延べ200人と多くの方にご参加いただきました。また中高生は顔を出さずに好きなキャラクター(アバター)になって参加しました。

私たちは、「中高生に楽しんでもらえるかな?」「プログラムが多いけどちゃんと成功するかな?」などの不安を抱えながら準備を進めてきました。当日は、不安と緊張、そして期待をふくらませてスタートしました。そこには、アバターやチャットで意見を返してくれる中高生の姿がありました。私たちは、中高生とつながった嬉しさと中高生同士がつながっている嬉しさを実感しました。

また、中高生の感想の中には、「毎日やってほしい!」「楽しかった!」といった声がありました。「ぴあ応援フェス」は良い形でスタートを切ることができました。これからも私たちと一緒に夢や希望、未来について考えていきましょう!

ぴあ応援ラジオをYouTubeなどで配信中!

皆さんこんにちは、ぴあ応援ラジオチームです。ぴあ応援ラジオでは、社会的養護で生活している中高生やそばにいる大人の方に向けて、進学や将来に役立つ情報を発信しています。ゲストを迎えてのコーナーや、応援生がお互いの経験談を語るコーナーなどがあります。これから新しいコーナーも増えていくのでぜひお聴きください。

YouTube

ぴあ応援ブック次回制作に向けて、
ご意見、ご感想などこちらのQRコードからお送りください!

制　　作:ぴあ応援ブック制作チーム
ゆうご、りこ、きぬよ、ひな、ゆう、しょうむ
デザイン:かえるぐみ
発　　行:朝日新聞厚生文化事業団
2023年1月発行